



研究部HP[®]版

第 15 版 教育研究部 令和3年3月発行

(文責:細井)

～ 問題行動に、どう対処するか 2 ～

1 データを取り続ける

データを取るためには、実際に問題行動が起きた状況での行動観察が大事になってきます。しかし、問題行動が起きている状況では、その場での対応に追われ、行動観察などは難しいことも多いでしょう。それでもデータを取り続けることで、問題行動のいろいろなことが見えてきます。それは、時間帯ごとの発生頻度であったり、場所ごとの発生頻度であったり、活動ごとの発生頻度であったり、先行条件ごとの発生頻度だったりなどです。

私が講義に参加して学んだデータと取り方は、今回紹介したものとともに、4項目について記述するものもありました。それに比べると、A・B・C記述フォームは書きやすいと感じています。前号でも触れましたが、A・B・C記述フォームは名称の違いだけではなく、多少ではありますが形式の違いのものもネットで検索することで見るができますので、使いやすいと感じるものを選ぶことができるでしょう。問題行動への対処を考えている場合は、ぜひデータを取ることをしてみてください。

2 データを取る前に

話が前後しますが、データを取る前に対処する行動を決めることが大事です。私が講義で学んだのは、以下の4つです。

- ・ 他害や自傷など怪我を引き起こす行動。
- ・ 激しい物損をもたらす行動。
- ・ いじめの対象になるような行動や仲間関係を妨害するような行動。
- ・ こだわりで学習が進まないなど物事の習得を阻害する行動。

この4つに当てはまるものが対処する行動になります。例えば、引き出しを常に1cmほど開けとくというこだわりは、学習の阻害にはならないので対処する行動にはならないということです。

また、腹痛や便秘など医学的な原因が考えられる場合は、それをまずクリアしてから始めるべきで、昼夜逆転など睡眠に関わるものが原因と考えられるものも保護者や医師とよく相談し、改善してから始めるべきとのことです。

おなかがいたい



3 MAS

「可能性のある機能」を考える際に参考となるものに、「Motivation Assessment Scale」というものがあります。頭文字をとって「MAS」と呼ばれ、日本語では「行動動機診断スケール」と呼ばれています。

機能を考えたい行動について、16の質問に6段階の回答をしていくと、「感覚要因」「逃避要求」「注目要求」「物や活動の要求」の4つ機能のどれの可能性が高いのかを採点することができます（この通信では、「感覚要因」「注目要求」「物や活動の要求」の3つは、「強化子の獲得」中に含まれるものとして紹介しています）。

これもネットで検索すると文言等の違いはあるものの、いろいろと見ることができます。中でも「東京学芸大学 特別支援科学講座 小笠原研究室」で検索し、開いていただき、さらに『「行動問題」への支援』を開くと「MAS」のワークシートがあります。表計算ソフトで作成されており、無料でダウンロードできます。表計算ソフトで作成されているので、自分で採点することなく、自動で結果が表示されるので、とても便利です。また、「東京学芸大学 特別支援科学講座 小笠原研究室」のホームページは、応用行動分析に関する内容も多く掲載されているので、たいへん参考になります。

インターネットけんさく



4 データの先

データを取り、集め、行動の目的・理由である機能がわかれば終了、というわけではありません。問題行動が起こらないように2つのことを考えていきます。環境を整えることで問題行動が起きないよう予防的に対応する「先行条件を変える」とことと、問題行動の機能と等しい機能を教える「適切な代替行動」です。

引用・参考：PECS トレーニングマニュアル第2版

カット：Pics for PECS 第1.5版（掲載許諾済み）